

指導死

shidoh-shi symposium

「指導死」シンポジウム

もはや他人ごとではない！
生徒指導による子どもの自殺
「指導死」をあらためて考える

日時：2015年9月19日(土) 13:00~16:30 (開場 12:40)

資料代：300円 (定員 100名・先着順)

会場：新広島弁護士会館 2階大会議室

所在地：広島市中区上八丁堀 2-73

最寄駅：白島線「縮景園前電停」より徒歩5分

主催：「指導死」親の会 (4104@2nd-gate.com)



【講演者】

東広島市 中2男子生徒 指導死遺族
長崎県 中2男子生徒 指導死遺族
兵庫県 高1男子生徒 指導死遺族
愛知県 高2男子生徒 指導死遺族
新潟県 高3男子生徒 指導死遺族
神奈川県 高3男子生徒 指導死遺族
東京都 中2男子生徒 指導死遺族
他

子どもを死へと追い詰める生徒指導が、なぜ行われるのか？

「指導死」という耳慣れない

言葉について

「指導死」は、「生徒指導を直接の原因、あるいはきっかけとした子どもの自殺」を意味する言葉です。生徒指導をきっかけに、子どもを自殺で失った遺族の間で生まれた新しい言葉です。

「自分の子どもの身に何が起きたのか、これをほかの人に説明することでさえ、非常な困難が伴う」

「子どもが指導を受けるようなことをしたのだから、自殺をしても仕方がないと批判される」

遺族の集まりでは、こんな声が多く上

がりました。

そのため、過労による自殺を広義の「過労死」と呼ぶことにならない、生徒指導による子どもの自殺を「指導死」と表現し、教育現場でのハラスメントを「指導死」という観点からとらえ直す提案を始めました。

「指導死」シンポジウムで

何を行うのか

このシンポジウムでは、「指導死」の実態を知っていただくことを第一の目的にしています。生徒指導を原因、あるいはきっかけとした子どもの自殺は、教育

評論家の武田さち子さん調べでは、これまでに75件起きています。この中には広島県内での2件の「指導死」が含まれています。「指導死」は決して特殊なできごとではないのです。

今回は「指導死」遺族の実際の体験に基づく事例紹介、多くの「指導死」遺族の支援、エンパワメントに関わった立場からの提言、なぜ子どもたちが生徒指導によって自殺へと追いやられていくのかに関する考察、子どもの自殺後の学校対応の問題点など、これまで遺族やその周囲の人たちが一つひとつ積み重ねてきた実績をご紹介します。

生徒指導をきっかけとした子どもの自殺「指導死」の定義

1. 一般に「指導」と考えられている教員の行為により、子どもが精神的あるいは肉体的に追い詰められ、自殺すること。
2. 指導方法として妥当性を欠くと思われるものでも、学校でよく行われる行為であれば「指導」と捉える（些細な行為による停学、連帯責任、長時間の事情聴取・事実確認など）。
3. 自殺の原因が「指導そのもの」や「指導をきっかけとした」と想定できるもの（指導から自殺までの時間が短い場合や、他の要因を見いだすことがきわめて困難なもの）。
4. 暴力を用いた指導が日本では少なくない。本来「暴行・傷害」と考えるべきだが、広義の「指導死」と捉える場合もある。